

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム
大学名	東京工業大学
担当部署	学務部留学生交流課交流推進第3グループ
コンタクト先	ryu.kor3@jim.titech.ac.jp

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>世界に山積する問題、特に高齢者の健康や医療、化石燃料の枯渇、化石燃料使用による温暖化等の問題を解決するためには、最先端の科学技術が必要不可欠となっており、特に産業と連動する工学技術の発展は経済活動の活性化にも重要と考えられている。本事業では、健康・医療産業や原子力・エネルギー産業に資する中心的な科学技術である生命工学、医用工学、環境科学、原子核工学分野における日露間の産業発展に寄与できる若手技術系人材の育成を、東工大とモスクワ大学およびロシア国立原子力研究大学と共同で実施することで、上述した産業をグローバルに先導できる研究者・技術者を輩出する。学内の複数の学院に跨るであるライフエンジニアリングコース、原子核工学コースや生命理工学コースが中心となり、工学院、物質理工学院、環境・社会理工学院、生命理工学院を横断した複合系コースを中心に、東京工業大学の学生派遣プログラム、ロシア大学の学生受入プログラム、日露の工学分野交流目的とする日露学生交流フォーラム開催を実施する。</p>
--

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	モスクワ大学の化学科・生命工学科を中心に、数年前から研究交流を開始し、教員交流が始まっている。今年中に正式な部局間MOUを複数締結する予定である。ロシア国立原子力研究大学とは25年前に大学間交流協定を締結し、教員交流や学生交流等を活発に実施している。まずは、双方の学生の親密な学術・文化交流を進め、若手人材交流を活性化した上で、本格的な教育交流を進めていく予定である。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	学生交流を進めながら、単位互換や単位認定を可能とする教育プログラムを双方で構築するとともに、ダブルディグリーなどの学位認定などを含むシステムについて検討していく予定である。双方での教育の問題点は、ロシア側での英語開講専門科目の数などが挙げられている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業に関わる工学技術発展に寄与する技術系人材育成に特化し、今後それらの産業の発展に必要な工学系技術分野は広く連携し、出口を見据えながら研究開発を実施できる日露若手人材を輩出する。
危機管理への対策	東工大学生には本学が提携している危機管理サービスが受けられる海外旅行保険に加入させ、学生が留学先において24時間体制のサポートが受けられる危機管理体制を構築している。また、渡露前に全員に「たびレジ」に登録させ、常に緊急時情報提供を受けられる状況にさせている。留学生には、入学時のオリエンテーションで有事の際の行動や連絡先について伝えるとともに、メールニュースで防災情報など生活に重要な情報も提供している。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化や日露からユーラシア大陸を横断する先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化などにも発展させるとともに、本事業を大学として継続的に実施していくための資金を獲得するために鋭意努力する。事業を介して企業との連携を強化し、企業からのサポートも充実させたい。本事業の期間終了後は、学内の学長裁量経費のほか、外部資金等を活用し、事業の持続的展開を図る予定である。また、既存プログラムとの効果的な集約を検討し、経費の効率化を図る。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

<p>日露間のプラットフォーム構築により、日露大学間での単位互換制度や単位認定制度の共通化を進め、将来多くの日露大学間で様々な教育連携ができるような環境を構築して頂きたい。</p>
--